



2016年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2015年10月
大阪ガス株式会社

I. 16.3期第2四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 <http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。平素は、当社事業につき、ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当社は、10月19日に創業110年を迎えました。これもひとえに長年におわたる、お客さまのご愛顧、株主さまを含むステークホルダーの皆さまのご支援の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。

それでは、ただいまから、2016年3月期 第2四半期実績と通期の見通しについて、ご説明させていただきます。

16.3期第2四半期決算のポイント I

対前年同期比較

■ 概況

| | |
|---------|---|
| 連結売上高 | ガス事業における販売単価の下落および販売量の減少等により、 前年比8.1%(561億円)減収の6,414億円。 |
| 連結経常利益 | LNG価格の下落に伴う原材料費の減少によって、ガス事業の利益が増加したこと等により、 前年比60.6%(350億円)増益の929億円。 |
| 四半期純利益* | 前年比38.9%(184億円)増益の659億円。 |

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

■ ガス販売量(個別)

| | |
|---------|--|
| 家庭用 | 春先の気水温が高く推移し、暖房・給湯需要が減少したこと等により、 前年比1.4%(11百万m³)減少の774百万m³。 |
| 商・公・医療用 | お客さま設備の稼働が減少したことや、夏期の気温が低く推移し、冷房需要が減少したこと等により、 前年比0.9%(6百万m³)減少の723百万m³。 |
| 工業用 | お客さま設備の稼働が減少したこと等により、 前年比2.1%(43百万m³)減少の2,017百万m³。 |

3

 OSAKA GAS
GROUP

2016年3月期 第2四半期は、減収・増益の決算となりました。

連結売上高は、ガス事業においてガス販売単価が下落したことや、ガス販売量が減少したことなどから、前年と比べて8.1%、561億円減収の、6,414億円となりました。

連結経常利益は、LNG価格の下落に伴う原材料費の減少により、ガス事業の利益が増加したことなどから、前年と比べて60.6%、350億円増益の、929億円となりました。

連結四半期純利益は、前年と比べて38.9%、184億円増益の、659億円となりました。

大阪ガス個別のガス販売量について、家庭用は、春先の気水温が高く推移し暖房や給湯の需要が減少したことなどにより、前年を1.4%下回る、7億7,400万m³となりました。

商業用・公用・医療用は、お客さま設備の稼働が減少したことや、夏期の気温が低く推移し、冷房需要が減少したことなどにより、前年を0.9%下回る、7億2,300万m³となりました。

工業用は、お客さま先の設備の稼働が減少したことなどにより、前年を2.1%下回る、20億1,700万m³となりました。

16.3期第2四半期決算のポイント II

対見通し比較

■ 概況

| | |
|--------|--|
| 連結売上高 | ガス売上高が減少したものの、関係会社の売上高が増加したこと等から、 見通しを0.2%(14億円)上回る6,414億円。 |
| 連結経常利益 | ガス事業における費用の減少等により、 見通しを9.4%(79億円)上回る929億円。 |

■ ガス販売量(個別)

| | |
|---------|---|
| 家庭用 | 春先の気水温が高く推移し、暖房・給湯需要が減少したこと等により、 見通しを1.6%(12百万m³)下回る774百万m³。 |
| 商・公・医療用 | 夏期の気温が想定より低く推移し、冷房需要が減少したこと等により、 見通しを1.0%(7百万m³)下回る723百万m³。 |
| 工業用 | お客さま設備の稼働が減少したこと等により、 見通しを4.8%(102百万m³)下回る2,017百万m³。 |

■ その他

| | |
|----------|---|
| 新規事業拡大投資 | 海外の上流・中下流案件、材料ソリューション事業における買収案件、国内の発電所建設への投資を中心に、 上半期の投資実行額は計551億円(年間計画額の37%)。 |
|----------|---|

4

 OSAKA GAS GROUP

続きまして、7月に発表した見通しとの対比でご説明します。

連結売上高は、ガス売上高が減少したものの、関係会社の売上高が増加したことなどにより、見通しを0.2%、金額にして14億円上回りました。

連結経常利益は、ガス事業における費用の減少などにより、見通しを9.4%、金額にして79億円上回りました。

大阪ガス個別のガス販売量については、前年同期比較と概ね同様の要因から、見通しに対して、家庭用は1.6%、商業用・公用・医療用は1.0%、工業用は4.8%、それぞれ下回りました。

新規事業拡大投資では、海外の上流案件や中下流案件、材料ソリューション事業における買収案件、国内の発電所建設への投資などを中心に、551億円を実行しており、年間計画額の37%にあたる進捗となっています。

16.3期第2四半期ガス販売実績

| 45MJ/m ³ | A. 16.3期 2Q | B. 15.3期 2Q | 前年差 A-B | 前年比 (A-B)/B | C. 16.3期 2Q見通し | 見通し比 (A-C)/C |
|------------------------------------|----------------|----------------|------------|----------------|-------------------|-----------------|
| お客さま数(千件) | 7,215 | 7,158 | +57 | +0.8% | 7,194 | +0.3% |
| 新設工事件数(千件) | 46 | 45 | +1 | +2.1% | 40 | +15.2% |
| 家庭用1戸当り販売量(m³/月) | 21.8 | 22.2 | -0.4 | -2.0% | 22.2 | -1.8% |
| 個別 | | | | | | |
| 家庭用 | 774 | 785 | -11 | -1.4% | 786 | -1.6% |
| 商・公・医療用 | 723 | 730 | -6 | -0.9% | 731 | -1.0% |
| 工業用 | 2,017 | 2,060 | -43 | -2.1% | 2,119 | -4.8% |
| 業務用計 | 2,740 | 2,790 | -49 | -1.8% | 2,849 | -3.8% |
| 他ガス事業者向け | 224 | 221 | +3 | +1.3% | 242 | -7.3% |
| (うち大口供給) | 2,332 | 2,384 | -52 | -2.2% | 2,441 | -4.5% |
| ガス販売量合計(百万m³) | 3,738 | 3,795 | -57 | -1.5% | 3,877 | -3.6% |
| 連結ガス販売量 | 3,756 | 3,812 | -57 | -1.5% | 3,895 | -3.6% |

ただ今ご説明しました、ガス販売実績を、こちらにまとめております。

連結ガス販売量は、前年を1.5%下回り、見通しを3.6%下回る、
37億5,600万m³となりました。

16.3期第2四半期実績 I

| 連結:億円 | A. 16.3期2Q | B. 15.3期2Q | ()内は連単倍率 | | C. 16.3期 2Q見通し | 見通し比 (A-C)/C |
|-------------------|--------------------------|--------------|------------|----------------|-------------------|-----------------|
| | | | 前年差 A-B | 前年比 (A-B)/B | | |
| 売上高 | (1.25) 6,414 | (1.22) 6,976 | -561 | -8.1% | 6,400 | +0.2% |
| 営業利益 | (1.21) 940 | (1.31) 538 | +402 | +74.7% | 835 | +12.7% |
| 経常利益 | (1.12) 929 | (1.25) 578 | +350 | +60.6% | 850 | +9.4% |
| 四半期純利益 | (1.09) 659 ^{※1} | (1.12) 475 | +184 | +38.9% | 590 | +11.8% |
| SVA ^{※2} | 499 | 315 | +184 | +58.5% | 434 | +14.9% |

| | | A. 16.3期2Q | B. 15.3期2Q | 前年差 A-B | C. 16.3期 2Q見通し | 見通し差 A-C |
|--------------------|--------|------------|------------|------------|-------------------|-------------|
| スライド差損益 | 億円 | 510 | 71 | +439 | 530 | -20 |
| 原油価格 ^{※3} | \$/bbl | 58.9 | 109.5 | -50.7 | 60.0 | -1.2 |
| 為替レート | 円/\$ | 121.9 | 103.0 | +18.9 | 120.0 | +1.9 |
| 連結子会社数 | | 147 | 147 | ±0 | --- | --- |

※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

※2 SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

※3 16.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均。

こちらには、2016年3月期 第2四半期の決算数値を、
まとめておりますので、ご確認下さい。

16.3期第2四半期実績 II

| 連結:億円 | A. 16.3期 2Q末 | 15.3期 2Q末 | B. 期末 | A-B | 備考 |
|-------------|-----------------|--------------|--------|-------|--------------|
| 総資産 | 18,499 | 16,775 | 18,622 | -122 | |
| 自己資本 | 9,393 | 8,328 | 8,884 | +508 | 利益剰余金の増加等 |
| 有利子負債 | 5,936 | 5,683 | 6,339 | -403 | 流動負債の減少 |
| 在籍人員 | 21,486 | 21,395 | 20,982 | +504 | 水澤化学工業の新規連結等 |
| 自己資本比率 | 50.8% | 49.6% | 47.7% | +3.1% | |
| D/E比率 | 0.63 | 0.68 | 0.71 | -0.08 | |
| | A. 16.3期2Q | B. 15.3期2Q | | A-B | 備考 |
| 設備投資 | 514 | 558 | | -44 | 上流案件投資の減少等 |
| 減価償却費 | 422 | 428 | | -6 | |
| フリーキャッシュフロー | 1,305 | 368 | | +937 | たな卸資産の減少等 |
| ROA | 3.6% | 2.8% | | +0.7% | |
| ROE | 7.2% | 5.8% | | +1.4% | |
| EPS (円/株) | 31.7 | 22.8 | | +8.9 | ガス粗利益の増加等 |
| BPS (円/株) | 451.5 | 400.2 | | +51.2 | 固定資産の増加等 |

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)ー通常の設備投資による支出。

7

 OSAKA GAS
GROUP

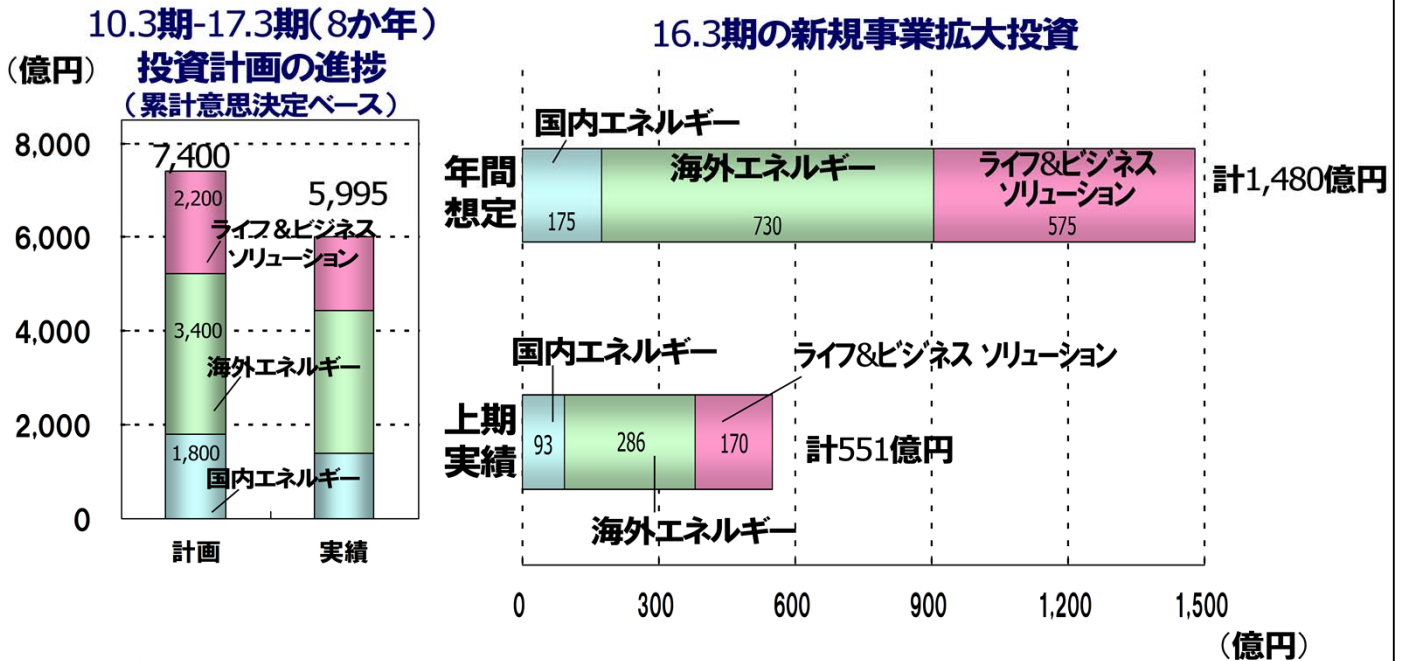
資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

設備投資は、前年に比べて海外の上流案件への投資が減少したことなどにより、前年を44億円下回る514億円となりました。

ROA・ROEは、それぞれ前年を上回る 3.6%、7.2%となりました。

16.3期第2四半期新規事業拡大投資実績

- 海外の上流・中下流案件、材料ソリューション事業における買収案件、国内の発電所建設への投資を中心に、計551億円の新規事業拡大投資を実行。
- 10.3期-17.3期の意思決定済金額は5,995億円(対計画81%)。



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

次に、新規事業拡大投資計画の進捗ですが、先ほども申し上げました通り、上半期は計551億円の新規事業拡大投資を実行いたしました。

また、2009年4月以降の累計意思決定金額は、対計画81%の5,995億円となりました。引き続き、成長のための投資を進めてまいりたいと考えています。

16.3期見通し 修正のポイント

| | | 今回見通し | 当初見通し | 差 | 備考 |
|--|-------------------|---------|---------|-------|-----------------------|
| 下期の 前提諸元 | 原油価格 \$/bbl | 55.0 | 70.0 | -15.0 | |
| | 為替レート 円/\$ | 125 | 120 | +5 | |
| 個別ガス 販売量 (百万m ³) (45MJ/m ³) | 家庭用 | (1,394) | (1,416) | (-22) | 省エネ・節約行動の 影響等を織り込み |
| | | 2,168 | 2,202 | -34 | |
| | 業務用 その他 | (3,065) | (3,134) | (-69) | お客さま設備の稼働 減少等を織り込み |
| | 6,029 | 6,225 | -195 | | |
| 収支 (億円) | 連結売上高 | 13,585 | 13,685 | -100 | |
| | ガス粗利 | 3,750 | 3,540 | +210 | スライド差益の拡大 |
| | 営雑・附帯利益 | 271 | 255 | +16 | 附帯差益の増加 |
| | 労務費・諸経費・ 減価償却費 | 3,031 | 3,055 | -24 | 諸経費の減少 |
| | 関係会社利益 | 395 | 395 | ±0 | 見通し修正はありません |
| | 連結営業利益 | 1,385 | 1,135 | +250 | |
| | 連結営業外収支 | -85 | -35 | -50 | 持分法投資利益の減少等 |
| | 連結経常利益 | 1,300 | 1,100 | +200 | |

(注)ガス販売量の上段()内は、16.3期下期の数値(内数)。

9

OSAKA GAS
GROUP

続いて、2016年3月期通期の見通しを修正しておりますので、ご説明いたします。

まず、下期の前提諸元については、先物価格やシンクタンクの予測なども踏まえ、原油価格を1バレルあたり55ドル、為替レートを1ドルあたり125円といたしました。

個別のガス販売量は、家庭用のお客さまの下期における省エネや節約行動などの影響を織り込み、前回見通しを3,400万m³下回り、業務用その他では、お客さま設備の稼働減少などが下期も続くとして、前回見通しを1億9,500万m³下回ると想定しています。

連結経常利益につきましては、ガス販売量が減少するものの、スライド差益の拡大などに伴い、ガス粗利益が増加するほか、諸経費などのコスト削減影響も織り込み、前回見通しを200億円上回ると想定しています。

16.3期ガス販売見通し

| 45MJ/m ³ | | A. 16.3期 見通し | B. 15.3期 実績 | 前年差 A-B | 前年比 (A-B)/B |
|---------------------|-------------------------------|-----------------|----------------|------------|----------------|
| 個 別 | お客さま数(千件) | 7,217 | 7,196 | +22 | +0.3% |
| | 新設工事件数(千件) | 107 | 107 | +0 | +0.5% |
| | 家庭用1戸当り販売量(m ³ /月) | 30.6 | 30.9 | -0.4 | -1.2% |
| | 家庭用 | 2,168 | 2,186 | -18 | -0.8% |
| | 商・公・医療用 | 1,436 | 1,465 | -29 | -2.0% |
| | 工業用 | 4,121 | 4,133 | -13 | -0.3% |
| | 業務用計 | 5,557 | 5,599 | -42 | -0.7% |
| | 他ガス事業者向け | 472 | 474 | -1 | -0.3% |
| | (うち大口供給) | (4,724) | (4,755) | (-31) | (-0.7%) |
| | ガス販売量合計(百万m ³) | 8,197 | 8,259 | -61 | -0.7% |
| 連結ガス販売量 | | 8,230 | 8,290 | -61 | -0.7% |

こちらには、通期のガス販売量の見通しを、
前年と比較して整理していますのでご確認ください。

16.3期見通し I

()内は連単倍率

| 連結:億円 | A. 16.3期 見通し | B. 15.3期 実績 | 前年差 A-B | 前年比 (A-B)/B |
|---------------------------|--------------------------|----------------|------------|----------------|
| 売上高 | (1.29) 13,585 | (1.22) 15,281 | -1,696 | -11.1% |
| 営業利益 | (1.40) 1,385 | (1.31) 1,050 | +334 | +31.8% |
| 経常利益 | (1.25) 1,300 | (1.23) 1,081 | +218 | +20.2% |
| 当期純利益 | (1.17) 875 ^{※1} | (1.09) 767 | +107 | +14.1% |
| SVA ^{※2} | 545 | 429 | +115 | +27.0% |
| スライド差損益 億円 | 645 | 123 | +522 | |
| 原油価格 ^{※3} \$/bbl | 56.9 | 90.4 | -33.4 | |
| 為替レート ^{※3} 円/\$ | 123.4 | 109.8 | +13.7 | |

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

※3 2015年10月～2016年3月の前提は、原油価格55\$/bbl、為替レート125円/\$

こちらに、通期の収支見通しを、前年と比較して整理しております。

売上高は、前年を11.1%下回る1兆3,585億円、

営業利益は、前年を31.8%上回る1,385億円、

経常利益は、前年を20.2%上回る1,300億円となる見通しです。

16.3期見通し II

| 連結:億円 | A. 16.3末見通し | B. 15.3末実績 | A-B |
|-------------|-------------|------------|-------|
| 総資産 | 18,780 | 18,622 | +157 |
| 自己資本 | 9,505 | 8,884 | +620 |
| 有利子負債 | 6,206 | 6,339 | -133 |
| 在籍人員 | 21,901 | 20,982 | +919 |
| 自己資本比率 | 50.6% | 47.7% | +2.9% |
| D/E比率 | 0.65 | 0.71 | -0.06 |
| | A. 16.3期見通し | B. 15.3期実績 | A-B |
| 設備投資 | 1,253 | 1,193 | +59 |
| 減価償却費 | 845 | 877 | -32 |
| フリーキャッシュフロー | 1,519 | 1,122 | +397 |
| ROA | 4.7% | 4.3% | +0.3% |
| ROE | 9.5% | 9.1% | +0.4% |
| EPS (円/株) | 42.1 | 36.9 | +5.2 |
| BPS (円/株) | 456.8 | 427.0 | +29.8 |

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。

12

 OSAKA GAS
GROUP

最後になりますが、資産・負債項目や、主な財務指標の見通しを、こちらに、まとめておりますので、ご確認下さい。通期のROA・ROEは、それぞれ、4.7%、9.5%となる見通しです。お手元には、ご参考資料として、さらに詳細な、決算の差異分析資料や、セグメント別内訳などの資料を付けておりますので、あわせてご覧下さい。

当社は、2016年4月から電力小売りが全面自由化されることを契機に、電力小売事業へと参画するため、8月に経済産業大臣へ小売電気事業の登録を申請し、先日無事に登録完了いたしました。

電力小売市場に参画することで、総合エネルギー事業者として、お客さまの快適な暮らしとビジネスの発展に貢献して参ります。今後ともご支援のほどをよろしくお願い致します。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

II. 参考資料



直近トピックス I

■ タイにおけるPTTとのエネルギーサービス共同会社の設立

| | |
|------|--|
| 会社名 | OGP Energy Solution Co., Ltd. (予定) |
| 設立時期 | 平成27年11月 |
| 出資比率 | Osaka Gas (Thailand) :60%、PTT Retail Business*:40% |
| 事業内容 | タイ王国の産業用顧客への燃料転換エネルギーサービス、エネルギー関連事業の実施 |



* 天然ガス輸入から小売まで営むタイ王国最大企業グループであるPTT Public Company (2014年度売上高・約9.5兆円) の子会社

■ 事業の概要

顧客の燃料転換時に必要となる天然ガス売買契約や設備設計、リース、メンテナンスをワンストップで行い、その対価としてエネルギーサービス料金を受け取るスキーム。



直近トピックスⅡ

■ 風力発電所の建設(和歌山県・日高郡印南町)

(株)ガスアンドパワー※1が、印南風力発電(株)※2 が新たに発行する株式を取得し、子会社化

※1 大阪ガス(株)の100%子会社 ※2 三井造船(株)の100%子会社

■ 発電所の概要

| | |
|------|----------------------------|
| 会社名 | 印南風力発電株式会社 |
| 設立時期 | 平成27年2月 |
| 資本金 | 4億9,500万円 |
| 出資比率 | (株)ガスアンドパワー:95%、三井造船(株):5% |
| 発電容量 | 2.6万kW(2千kW×13基) |
| 運転開始 | 2018年6月(予定) |



■ 現在保有している風力発電所

葉山風力発電所(高知県)
広川明神山風力発電(和歌山県)
由良風力発電(和歌山県)
肥前風力発電(佐賀県)
平生風力発電(山口県)

大阪ガスグループは、再生可能エネルギー事業を通じ、環境負荷の低減に取り組んでいます。

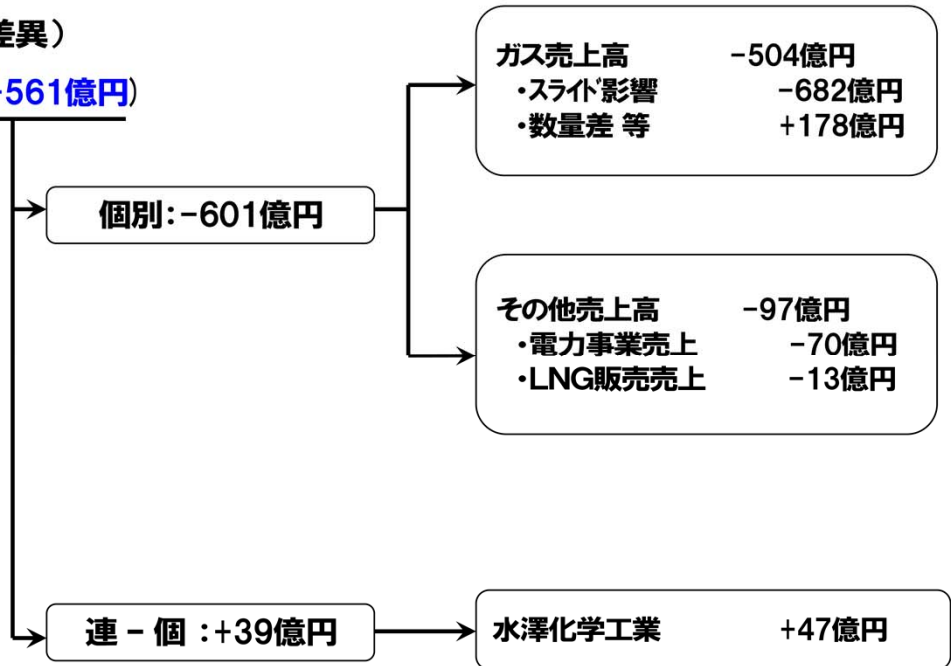


● 現在保有電源(風力発電)

16.3期第2四半期の売上高差異(対前年同期)

15.3期2Q → 16.3期2Q (差異)

6,976億円 6,414億円 (-561億円)

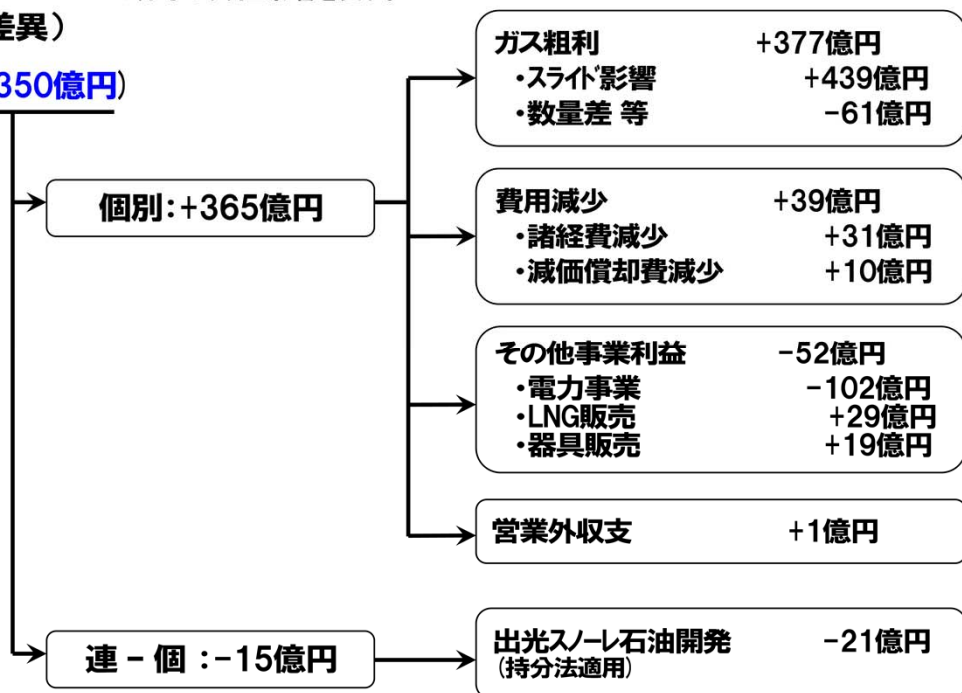


16.3期第2四半期の経常利益差異(対前年同期)

+-の符号は、利益影響を表す。

15.3期2Q → 16.3期2Q (差異)

578億円 929億円 (+350億円)



16.3期第2四半期の売上高差異(対見通し)

16.3期 2Q見通し → 16.3期 2Q実績(差異)

6,400億円 6,414億円 (+14億円)

個別: -20億円

ガス売上高 -43億円
 ・スライト影響 +41億円
 ・数量差等 -85億円

その他売上高 +22億円
 ・附帯事業売上 +24億円
 (主に電力事業)

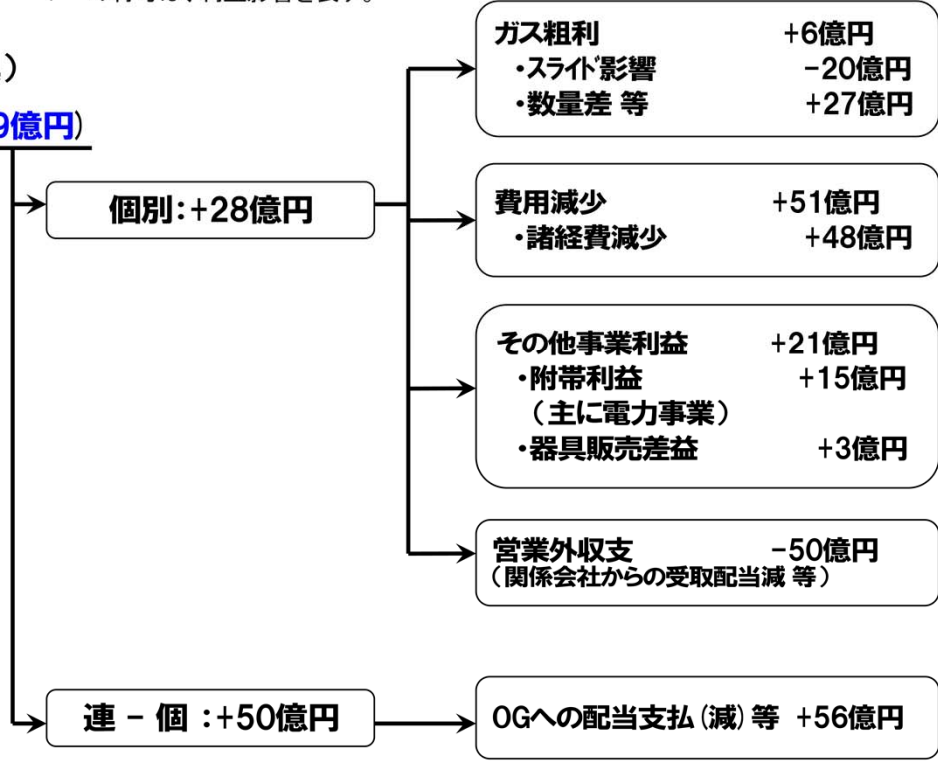
連 - 個 : +34億円

OGエンジニアリング +7億円
 Osaka Gas USA +6億円
 オージス総研 +3億円
 関西ビジネスインフォメーション +2億円

16.3期第2四半期の経常利益差異(対見通し)

+-の符号は、利益影響を表す。

16.3期
2Q見通し → 16.3期
2Q実績(差異)
850億円 929億円(+79億円)



16.3期売上高見通しの前年差異

15.3期実績 → 16.3期見通し(差異)
 15,281億円 13,585億円 (-1,696億円)

個別: -1,973億円

ガス売上高 -1,657億円
 ・スライト影響 -2,148億円
 ・数量差等 +490億円

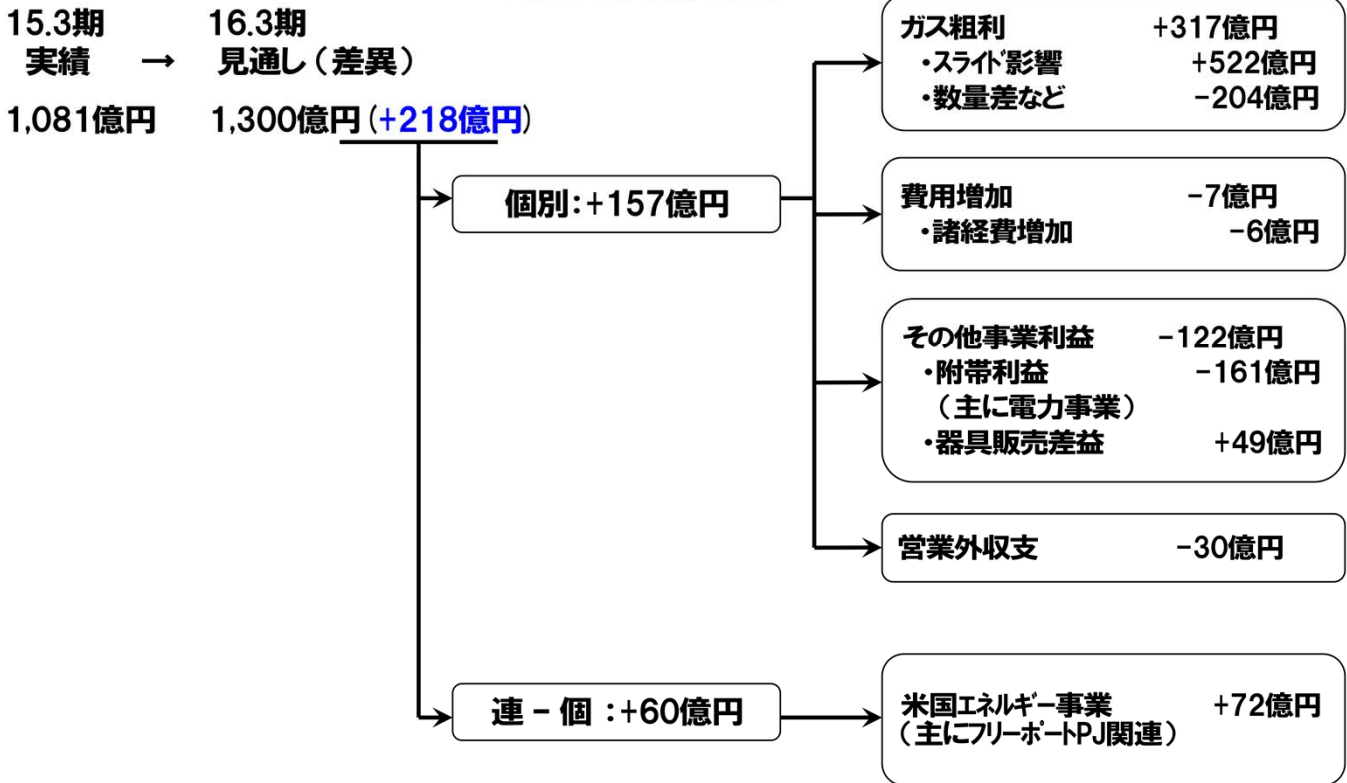
その他売上高 -315億円
 ・附帯売上 -258億円
 (電力事業、LNG販売等)
 ・器具販売売上 -43億円

連 - 個 : +276億円

水澤化学工業 +97億円
 Jacobi Carbons AB +59億円
 米国エネルギー事業 (OGUSA 等) +43億円
 オージス総研 +29億円
 OGインターナショナルトランスポート +19億円

16.3期経常利益見通しの前年差異

+-の符号は、利益影響を表す。



セグメント別実績

| 単位:億円 | 売上高 | | セグメント利益 ^(*) | | 備考 |
|---------------------|-------------|-------------|------------------------|-------------|--|
| | 16.3期 2Q | 15.3期 2Q | 16.3期 2Q | 15.3期 2Q | |
| ガス | 4,586 | 5,103 | 648 | 212 | 売上:販売量減少・販売単価下落 利益:ガス粗利の増加 |
| LPG・電力・ その他エネルギー | 1,038 | 1,194 | 169 | 257 | 売上・利益:主に電力事業で減少 電力事業利益 ^(**) 15.3 2Q 202億円 16.3 2Q 100億円 |
| 海外エネルギー | 107 | 65 | 36 | 49 | 売上:米国エネルギー事業等で増加 利益:油価下落の影響等により、 主に上流事業で減少 |
| ライフ&ビジネス ソリューション | 1,002 | 933 | 74 | 53 | 売上:情報・材料ソリューション事業等で増加 利益:情報ソリューション事業等で増加 (前期・一時的費用計上の反動増等) |
| 消去又は全社 | -321 | -320 | 7 | 12 | |
| 連結 | 6,414 | 6,976 | 937 | 586 | |

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

(**)電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示

セグメント別通期見通し

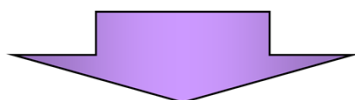
| 単位:億円 | 売上高 | | セグメント利益 ^(*) | | 備考 |
|---------------------|--------------|-------------|------------------------|-------------|--|
| | 16.3期 見通し | 15.3期 実績 | 16.3期 見通し | 15.3期 実績 | |
| ガス | 9,639 | 11,369 | 850 | 502 | 売上:販売量減少・販売単価下落 利益:ガス粗利の増加 |
| LPG・電力・ その他エネルギー | 2,131 | 2,437 | 260 | 416 | 売上:電力事業・LNG販売等で減少 利益:主に電力事業で減少 |
| 海外エネルギー | 203 | 137 | 45 | 12 | 売上・利益: 米国エネルギー事業等で増加 |
| ライフ&ビジネス ソリューション | 2,291 | 2,075 | 210 | 165 | 売上・利益:材料ソリューション事業等で 増加(前期・一時的費用計上の反動増等) |
| 消去又は全社 | -679 | -737 | 22 | 22 | |
| 連結 | 13,585 | 15,281 | 1,387 | 1,120 | |

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

家庭用ガス販売

16.3期2Q実績

| | 対前期 | 備考 |
|-------|-------|--------------------------|
| 調定件数 | +0.6% | |
| 気水温影響 | -1.4% | 平均気温23.2度(対前期+0.2度) |
| その他 | -0.6% | ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等 |
| 合計 | -1.4% | |



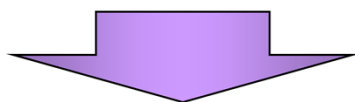
16.3期通期見通し

- 上期は、見通しを12百万m³下回った。
- 下期は、見通しを22百万m³下回ると想定。
- 通期では、前期を18百万m³・見通しを34百万m³下回る2,168百万m³と想定。

商公医療用ガス販売

16.3期2Q実績

| | 対前期 | 備考 |
|-------|-------|--------------------------|
| 需要開発 | +2.9% | 空調需要を中心とした新規開拓 |
| 気温影響等 | -0.3% | 夏場の低気温による冷房需要の減少 |
| 個別要因 | -1.4% | 特殊要因によるお客さま先での設備稼働の減少 |
| その他 | -2.1% | ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等 |
| 合計 | -0.9% | |



16.3期通期見通し

- 上期は、見通しを7百万m³下回った。
- 下期は、見通しを3百万m³下回ると想定。
- 通期では、前期を29百万m³・見通しを10百万m³下回る1,436百万m³と想定。

工業用ガス販売

16.3期2Q実績

| | 対前期 | 備考 |
|-------|-------|--------------|
| 需要開発 | +1.9% | 他燃料からのガス転換等 |
| 稼働増減等 | -2.0% | お客さま設備の稼働減少等 |
| 個別要因 | -0.4% | 特殊要因による減少 |
| その他 | -1.6% | |
| 合計 | -2.1% | |

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

| | 販売量 | 対前期比 |
|-----|-----|--------|
| 機械 | 157 | 98.2% |
| 金属 | 474 | 94.1% |
| ガラス | 147 | 96.0% |
| 化学 | 616 | 101.2% |
| 食品 | 258 | 100.5% |



16.3期通期見通し

- 上期は、見通しを102百万m³下回った。
- 通期では、前期を13百万m³・見通しを159百万m³下回る4,121百万m³と想定。

16.3期 月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 上期累計 |
|----------------------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 家庭用 | | 99.7 | 93.4 | 96.0 | 107.4 | 101.8 | 97.6 | 98.6 |
| 商・公・医療用 | | 100.8 | 107.9 | 94.6 | 96.6 | 102.4 | 94.3 | 99.1 |
| 工業用 | | 98.2 | 93.2 | 96.8 | 100.0 | 102.4 | 96.7 | 97.9 |
| 業 種 別 | 機械 | 97.2 | 93.5 | 103.5 | 97.9 | 103.2 | 93.5 | 98.2 |
| | 金属 | 93.6 | 91.4 | 92.7 | 95.9 | 97.8 | 93.4 | 94.1 |
| | ガラス | 92.4 | 89.7 | 97.6 | 97.4 | 100.2 | 98.8 | 96.0 |
| | 化学 | 100.9 | 93.6 | 101.1 | 103.8 | 106.5 | 101.6 | 101.2 |
| | 食品 | 99.6 | 97.6 | 100.0 | 103.3 | 103.5 | 99.0 | 100.5 |
| 他ガス事業者向け | | 103.2 | 97.0 | 101.9 | 101.5 | 108.2 | 96.5 | 101.3 |
| 計 | | 99.4 | 95.6 | 96.6 | 100.5 | 102.7 | 96.2 | 98.5 |

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすること等から、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第3四半期以降の経常利益は-12億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすること等から、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第3四半期以降の経常利益は-8億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成により、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間5億円変動する可能性がある。